

チーバくんグローバルパートナーズ 意見交換会

日 時：令和6年3月18日

形 式：Zoomミーティング

出席者：チーバくんグローバルパートナーズ8名、千葉県国際交流センター1名、
千葉県5名

意見交換会 次第

1. 課長挨拶
2. 自己紹介
3. 意見交換会

「チーバくんグローバルパートナーズとしての1年間の活動」

- (1) 「チーバくんグローバルパートナーズ」としての情報発信 について
- (2) 千葉県のイベント参加、魅力の発信 について
- (3) 今後の「チーバくんグローバルパートナーズ意見交換会」で取り上げるべきテーマ について

「ダイバーシティの取組について」

- (1) お互いを尊重し、みんなが活躍できる千葉県を目指すことについて、どう思うか。
- (2) ダイバーシティに関して、日本の社会に変わって欲しいこと、県に取り組んでほしいこと

意見交換会 意見概要

「チーバくんグローバルパートナーズとしての1年間の活動」

(1) 「チーバくんグローバルパートナーズ」としての情報発信 について

- ・所属する交流団体員に、災害時、何をされた方がよいかを発信した。来日したばかりの人達は、日本語力が十分でなく、情報も少ないので、知らせることは必要なこと。県から依頼されたイベントについても、英語やインドネシア語に翻訳して、Facebook のコミュニティグループに向けて発信した。
- ・保育園、区役所、在留資格等の手続を支援したり、礼拝できるところを紹介した。
- ・NHKラジオの地域放送に出演し、グローバルパートナーズについて、発言した。
- ・地震の発生後、まず知り合いに安否確認し、Instagram に 英語の役に立つアプリの情報を載せた。
- ・日本にきたばかりの友人や県内の外国出身の知人に、チーバくんグローバルパートナーズを紹介した。利用したツールは、Instagram やLINE。様々な国出身の人に向けて、英語と日本語で発信した。
- ・約250名が集まるモスクの礼拝で、県から受けた地震・災害の情報を共有した。
- ・災害に関する情報発信（元日の地震）をした。パートナーズとしての役割を改めて意識し、

緊急時にも必要な情報が発信できるよう努めたいと思った。

- ・留学生会（様々な国籍の留学生）会長を務め、大学間の交流促進やイベントの運営をした。英語や中国語で、SNS に発信した。
- ・所属する大学で設けている WeChat に、週 1 回で千葉県情報を発信した。
- ・イベントや日本語学習支援の情報を、Facebook（日本語、中国語）、LINE（日本語）、WeChat（中国語）で発信した。
- ・地域の移住相談員を務めており、Facebook のアカウントを運営している。そこに県からの情報も載せた。また、個人の SNS（Instagram、Facebook）を毎日更新し、その中で県情報を発信した。
- ・身近に外国出身の人はあまりいないが、日本人に「外国出身の人達は情報弱者であること」を伝えた。
- ・訪日観光客が利用する場所で勤務しており、利用者に日本語ができなくても楽しめる場所、日本の滞在時に必要な情報を、英語や中国語で伝えた。
- ・パートナーズとして、県からの情報を Instagram のストーリーズに発信した。

（2）千葉県のイベント参加、魅力の発信 について

- ・「酒フェスタ」は、非常におもしろかった。現在、台湾に爆発的に人気を集める日本酒のブランドもある。
- ・「台湾桃園市国楽団コンサート」に、知り合いと共に訪れ、演奏を楽しんだ。
- ・千葉県誕生 150 周年企画の一つとして、3 月に「九十九里ドックフェスティバル」、6 月に一宮から横芝光町にかけて九十九里を参加者皆で一斉に掃除するイベントがある。
- ・母国から友人が訪問した時に、成田山、房総の村、お花見、海等を案内し、情報発信をした。外国から訪れる人は、京都や東京等、有名な場所に行くことが多いが、積極的に千葉県を紹介したいと思う。
- ・「モニターツアー」や「国際理解セミナー」に参加し、これまで経験したことがないことを、初めて経験することができた。
- ・外国人だけではなく、日本人も知らないことがたくさんある。自分の経験を話すことで、そのことを知った。国籍問わず、共有することで横のつながりがもっと築けると思う。
- ・千葉県国際交流センターが開催した「小児がん啓発キャンペーン」に参加したし、「ちば出前講座」では講師を務めた。
- ・インドから商用目的で訪れた 50 名程の通訳を務めた。千葉県の観光に適した場所、自然豊かな場所、インド映画のロケ地として適している場所（成田空港からアクセスしやすい）を紹介した。日本在住の外国人だけではなく、海外にいる人達にも発信して、架け橋になりたいと思っている。
- ・「我孫子市国際交流祭り」に参加し、日本最大の「ジャパンボードフェスティバル」（我孫子市）では通訳をした。県内を旅行し、SNS で発信し、コメントがあった。

- ・県内旅行をした時は、風景や食等について発信した。「ビリビリ」という中国の若い世代中心に人気のアプリに、アップロードした。日本の留学生の生活に興味を持つ人が多く、コメントもあった。
- ・「日本語スピーチコンテスト」、「千葉キワニスクラブ国際親善賞」、「旭市ふるさと文芸賞」等に積極的に参加し、千葉県への感謝や魅力を取り上げ、受賞した。

(3) 今後の「チーバくんグローバルパートナーズ意見交換会」で取り上げるべきテーマ

- ・区役所、保育所等、生活のニーズに焦点を充てたテーマを話し合うとよいと思う。自分自身、この1年にサポート役として区役所や福祉センターに何度も訪れた。自分と同じ出身国の人は、英語を話す人が多く、日本語よりも伝わりやすい。
- ・外国人への支援について、市町村による地域の格差を感じる。そのことについて、チーバくんグローバルパートナーズ意見交換会で取り上げてはどうか。
- ・最近、「オンライン受診」を利用し、便利だと感じた。千葉県にないので、これから設置されれば、外国人県民にも役立つと思う。

「ダイバーシティの取組について」

○ お互いを尊重し、みんなが活躍できる千葉県を目指すことについて、どう思うか。

○ ダイバーシティに関して、日本の社会に変わって欲しいこと、県に取り組んでほしいこと

- ・ダイバーシティの理解を深めるためには、一般住民への啓発に加え、これから社会のリーダーになっていく若い人への浸透が重要。例えば、一般向けのセミナーの開催や、大学（学生のサークル含む）と連携して学生の理解を深める等の取組を検討して欲しい。
- ・住んでいる横芝光町では、誰でも過ごしやすいユニバーサル街づくり活動（車いすでも利用できるビーチづくり等）を行っている。県全体でもそういった取組が必要だと思う。
- ・子供たちの教育が大切。子供のうちから異なる文化に触れると、視野が広がり多様性の理解も深まる。現在は、個々の学校が依頼して国際交流員の派遣を受けているが、どの学校も年1回など当然派遣を受けるような仕組みにしてはどうか。
- ・移住している外国人の子供が、学校などの日本のコミュニティになじむ一方で、自国のアイデンティティを失い、親とのコミュニケーションも希薄になる傾向がある。自国の文化や言語も大切に教育が必要だと感じている。

第3回 チーバくんグローバルパートナーズ 意見交換会 光景

